

桜台だより

2025年（令和7年）元旦
発行・編集 桜台自治会広報部

新年明けましておめでとうございます



桜台自治会員の皆さん明けましておめでとうございます。初詣はいかれましたでしょうか。

日本には奈良、京都を始めとして全国各地に神社仏閣があり、その数15万8000カ所以上あるそうです。

私たちの身近では鎌倉が一番馴染みのある場所だと思いますので、新年にあたってこれから皆さんを歴史の旅へとお連れしたいと思います。

源頼朝が都を開いた鎌倉は京都と比較されますが、武家社会の中で発達したことから、京都のような優美さはありません。三方を山に囲まれ、前に海があり自然の砦として繁栄して来ました。

それでは文部省唱歌「鎌倉」の歌詞にあわせて散策していきたいと思いますが、この「鎌倉」は明治の43年ころにつくられた歌で皆さんの中にはこの歌を懐かしく思われる方もいると思いますので一緒に口ずさみながら出発しましょう。

1. 七里ガ浜のいそ伝い 稲村ヶ崎 名将の剣投げし古戦場

稲村ヶ崎の剣投げし古戦場とは、鎌倉幕府を事実上滅亡に追い込んだ武将・新田義貞にまつわる伝説の場所です。鎌倉時代末期の1333年5月に挙兵した新田義貞は、稲村ヶ崎の海岸を渡ろうとしたところ、当時は崖で道が狭く、軍勢が稲村ヶ崎を超えられなかった。そこで、義貞は海から攻め込むため、潮が引くのを念じて剣を投じると、見る間に潮が引いて干潟になったという伝説が「太平記」に記されています。

ここで鎌倉の地形や呼び名を少し紹介します。鎌倉に入るには「切り通し」と呼ばれる山を切り開いて作った狭い道を通る他は海から船で入る以外にありませんでした。この「切り通し」は今でも「名越えの切り通し」・「化粧(けわい)の切り通し」として現存しています。

また、この地域では「谷」のことを「やつ」と呼び、「薬師堂ガ谷」・「扇ガ谷」などと呼ばれています。

当時、鎌倉を守る北条軍はいくつかの狭い切り通しに兵を配置し、海には軍船を浮かべて新田義貞の軍勢を迎え撃ったのですが、敗北し滅亡へと向かっていきます。

2. 極楽寺坂超えゆけば 長谷観音の堂近く 路座の大仏おわします



「鎌倉の大仏」は「奈良の大仏」と違い建屋はありませんが、建立の当初は建屋があったそうです。正式名称は「阿弥陀如来座像」で、歴仁元年(1238年)に木造で作られましたが、火災や地震などで倒壊し、現在のものは建長4年(1252年)再建されたものです。建屋は室町時代の津波により流され消失し今に至っています。

長谷観音は、寺伝によれば養老5年、大和の長谷寺で本尊として十一面観音を一本の楠から二本の像を造り、一つは奈良の長谷寺に安置し、残る一体を祈請の上で海に流したところ三浦半島の長井というところに流れ着き、そちらを鎌倉に安置したと言われています。

3. 由比の浜辺を右に見て 雪の下村すぎゆけば 八幡宮の御社

これは、江の島方面から海沿いに鎌倉に入ると稲村ヶ崎を通り由比ヶ浜を右にみて左折すると「雪の下」から若宮大路(参道)を抜けて鶴岡八幡宮に入ります。1063年、源氏の祖、源頼義によって由比ヶ浜に石清水八幡宮の分社として建てられました。その後、鎌倉に幕府を開いた源頼朝によって、現在の場所に移され源氏の氏神として信奉されるようになり、鎌倉武士の守護神と呼ばれるようになりました。鎌倉幕府滅亡後も足利氏・後北条氏・豊臣氏・徳川氏からも信仰され、江戸時代には幕府の手厚い保護を受け大規模本殿が作られました。

4. 上がるや石のきざはし(階)の 左に高き大銀杏 問はばや遠き世々の跡



ここは、鶴岡八幡宮の社殿に上がる石段で、左側に大銀杏(写真)が立っていました。残念ながら、2010年(平成22年)3月10日の未明、雪と強風のため、樹齢1000年を超えていた大銀杏は根本から倒れ伏してしまい、問うべき歴史は問えぬままに・・・

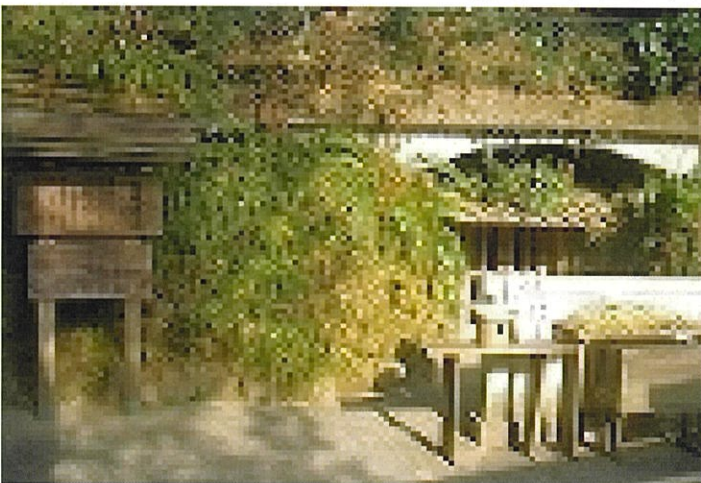
5. 若宮堂の舞の袖 しずのをだまきくりかえし かえしし人を偲びつつ



奈良の吉野山で源義経の妾・静御前が捕えられ鎌倉に送られ、鶴岡八幡宮の社前で白拍子の舞を舞ったときの歌の一部です。

頼朝の妻、北条政子は静御前の舞を見たいと言ったことから、頼朝は静御前に舞を踊るよう命じますが、静御前はあろうことか頼朝と対立していた義経を慕う歌を詠んで舞ったのです。このことに頼朝は激怒しますが、妻の北条政子が「私と同じ立場でも同じ歌を詠んだでしょう」となだめると、頼朝は「女の道はこうあるべきか」と感心し、褒美まで出したといひます。「しずのをだまき」の「しず」は織物の名前ですが静の名前を裏に隠し、をだまき(苧環)は糸を巻いて玉状にしたものです。歌の意味は、をだまきから糸を繰り出すように時を巻き戻し、義経様が静よ静よと繰り返し私の名を呼んで下さったあの昔に戻れたら・・・と詠んだものです

6. 鎌倉宮に詣でては 尽きせぬ親王のみうらみに 悲憤の涙わきぬべし



(現在も保存されている土牢)

後醍醐天皇の皇子として延慶元年(1308年)に誕生した護良親王(もりながしんのう)は、父とともに鎌倉幕府を倒し建武中興を実現しますが、足利尊氏と対立して奸策(かんさく)に遭い捕えられ、東光寺(現在の鎌倉宮)の土牢に幽閉されてしまい、わずか28才の若さでその生涯を閉じます。

明治天皇は護良親王を哀れに思い親王終えん終縁の地、東光寺跡に神社造営の勅命を発し「鎌倉宮」と名づけました。

7. 歴史は長き七百年 興亡すべて夢に似て 英雄墓は苔蒸しぬ

英雄とは、源頼朝のようで「鎌倉宮」の近くの大蔵山に頼朝の墓がありますが、極めて簡素な石塔があるだけです。

8. 建長円覚古寺の山 門高き松風に 昔の音やこもるらん

建長寺は禅宗寺院で臨済宗建長寺派の総本山であり「鎌倉五山」の筆頭。鎌倉幕府第5代将軍「北条時頼」によって創建されました。開山は「蘭溪道隆大覚禅師」で建長五年「鞭影を見て後に行くは即ち良馬に非ず・・」で始まる建長寺の修行規則を作り、我が国初の禅道場が落慶いたします。

円覚寺は、臨済宗円覚寺派の総本山で「鎌倉五山」第二位、開祖は「北条時宗」開山は「無学祖元」元寇の戦没者追悼のため弘安五年創建されました。塔頭は42院あったといわれ、縁切り寺として有名な「東慶寺」もその一つです。

鎌倉五山は、臨済宗の五大寺で「建長寺」「円覚寺」「寿福寺」「浄智寺」「浄妙寺」を指します。

それでは皆様今年一年、良い年でありますように祈念して、文部省唱歌「鎌倉」による歴史散策を終了します。